

平成 28 年度 第 2 回 高精度測位社会プロジェクト検討会  
議事要旨

1. 日時：平成 28 年 11 月 18 日（金）10：00～12：00

2. 場所：TKP 大手町カンファレンスセンター ホール 22G

3. 議事

- (1) 前回議事録確認及び前回の指摘事項への対応状況報告
- (2) 屋内外シームレス測位サービス実証実験グループ・検討状況報告
- (3) 推進体制検討ワーキンググループの設置及び進め方について
- (4) 今後の予定

4. 議事要旨

(1) 議事 (1) について

事務局より資料 3-1、国土地理院より 3-2 の説明後、出席者より以下の発言がなされた。

<3 次元地図の作成仕様>

- ・ 最初に 3 次元地図の仕様書が 29 年度の末に 3 年間のプロジェクトの成果として出ることについて、検討のペースからいって 29 年度に終了し、成果・仕様が確定するというのでは普及を考える上では遅すぎる。28 年度の終わりには、仕様の方向感があったほうがよいのではないだろうか。

<移動中の人のデータの取り扱い>

- ・ 防災時の誘導のなど、移動中の人たちのデータをどう取り扱うか、ムービングフィーチャーとよび、現在議論されているところ。世の中でまだあまり議論されていないので、早めに OGC や ISO 等の関係部署に持っていく、宣伝しながら展開していくのがよいのではないだろうか。ただ、ようやくデータアクセスのインターフェースが、来年の 3 月位にできるというのが現状。

<競争領域と協調領域についての整理>

- ・ 資料の 4 頁目の辺り、サービスが競争領域、測位や地図等の基盤が協調領域と記載されているが、おそらくこれは、競争領域と協調領域どちらもあるのではないかと思う。
- ・ サービスでいえば、例えば障害のある方の移動支援は、競争領域というよりも協調領域のサービスだろう。例えば屋内測位基盤というの、競争領域と協調領域があり、公共空間に整備することに関しては協調領域だが、各店舗に整備するときは皆独自のサービスや高度なもので差別化したいという要求もあり競争領域だろう。サービスも測位・地図も協調領域と競争領域どちらも

あることを踏まえると、もしかするとサービスも測位・地図も協調の領域があって、うまく国と関わる中でやっていながら競争に持っていくような展開があるのではと思っており、この協調領域と競争領域を単純に綺麗に分割するのは難しいのではないだろうか。

## (2) 議事 (2) について

事務局より資料4の説明後、出席者より以下の発言がなされた。

### <実証実験の成果としてのマニュアルについて>

- ・ 昨年度からもいろいろな実証実験を行ってきており、知見が蓄積してきていると思われるため、実験成果や、得られた知見や整理されたことをなるべく普及していただきたい。その成果や知見を普及させ、認知させていくことに時間と労力を使っただけだとありがたい。

### <ながらスマホ、歩きスマホについて>

- ・ この傾向は日本だけではなくて世界的な傾向で、テキストウォーキングといわれており、問題になっている。実際、海外の取り組みでは、テキストウォーキングレーンというレーンを作って対策している事例も存在する。
- ・ 歩きスマホも禁止という方向ではなくて、安全にできる方策というのも考えてもよいのではないだろうか。

### <現場との調整について>

- ・ 屋内測位環境のために調査に入ることは理解しているが、現場との調整に時間を要するため、具体的な日程や実施方法を早目に教えていただきたい。

### <スタジアムにおける屋内測位に対する考え方>

- ・ 他の駅や空港と条件が違って、決まったイベントにしかお客様が来られないので比較的目的を絞り易いのではと思っている。
- ・ 一番使用回数が多いのはJリーグであり、Jリーグの時はホームとアウェイとで非常に厳格に、両者が行き来できないようにスタジアムを仕切っている。それ以外のイベントでは自由に行き来ができる。また1階席、2階席のうち、イベントによっては1階のみしか使わないなど、いろいろな空間の分け方がある。日産スタジアムは今のところ日本で一番大きいので、ここで実験して得られた成果を横展開し、今後できるスタジアムで是非検討していただきたい。

## (3) 議事 (3) について

事務局より資料5、6の説明後、出席者より以下の発言があった。

### <施設管理者側の意向を反映する体制>

- ・ 普及を考えた場合、施設管理者側にいろいろとご協力いただかなくてはいけない。具体的には、駅の中の工事の誘導方法など、リアルタイムに施設管理者との情報のやりとりが必要な場合などを想定している。何かあった時の苦情処理等も含め、どういうコントロールをするかは施設

管理者側に権限が存在すると思う。そこをどのように反映できる体制を作るかということも、単にビジネスモデルではない検討事項としては検討する必要があるのではないだろうか。

(4) 議事(4)に関して

事務局より資料7の説明後、出席者より以下の発言があった。

<今年度事業で想定されるアウトプット>

- ・ 地図素材管理のセーフガードが機能するには、このような連絡会を作るような体制が必要だろう。おそらく、共通の空間を管理されているところは、色々な災害対応等に向けた横の連携体制、連絡体制を必ず持っているだろうから、そういう地域に踏み込んで、議論すればよいのではないか。
- ・ アプリを出すとしたら協議会みたいなところに諮るとか、このエリアでは動かないようにしてほしいといったガバナンス・管理があり、それに従えば実現できることがみえてくると、多少詰まっていない観点があっても、横展開が極めて容易だし、アプリも作りやすいのではないだろうか。海外の人達もそれを参考にして、連携が生まれてくるのではないだろうか。

<オリ・パラ委員会との連携>

- ・ 東京は有明にあちこち競技会場があり、都心部には東京国際フォーラム、日本武道館、新国立競技場、さらに代々木体育館、西には、調布の味の素スタジアムと競技会場が一つ一つ独立している。このようなロケーションがありつつ、日本の東京は、世界一超密な公共交通網、道路も整っているため特に海外から来られたお客様が空港から鉄道、あるいは道路、バス等を使ってホテルに着き、さらにホテルから競技会場へ円滑にお越しいただくというプランも今研究しているところ。このような情報提供のあり方も含めて、今後とも連携させていただきたい。

以上